

教育・保育理念 ・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮
園のスローガン ・輝け！みんなが主役 <small>エガオ</small> 笑顔あふれる宮園こども園

令和4年度重点目標 ・主体的に生きる力を育てる。 ・家庭と連携し、基本的生活習慣を整える。 ・保幼小が連携し、子どもの健やかな育ちと学びをつなげていく。 ・地域に根差した(子育て拠点)こども園をめざす。

評価の基準 A・・・達成している B・・・おおむね達成している C・・・取り組みが不十分である
--

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
主体的に生きる力を育てる	自主性や意欲を大切に、興味や関心がわくような遊び・集団作り・心身共に健康な育ち・体力作り等の保障及び導入の工夫をする。	・保育教諭とのふれあいを通して愛着関係を育み、意欲的に生きていく力につなげる。 ・子どもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら思いをうけとめ、自尊感情を育てる。 ・お互いの事を認め合い、共に育ちあうクラスづくりを行う。 ・集団生活においてルールを守ったり、自分の気持ちや感情をコントロールする力を育てていく。 ・園児の興味・関心に気づき、遊びこめる環境を整える。 ・園児の意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする。 ・遊びの中での成功体験や失敗体験から集中力や粘り強さなどを育てる。 ・「主体的・対話的・深い学び」の中でも特に「子どもが主体的に学ぶ」ことを大切にした実践を展開する。	A	園の重点に沿って園内で話しあい、子どもとの信頼関係を築くための取り組みを実践していることが分かった。コロナ禍で主体的な学びの中でも体験的な学習がなかなかできていなかったと思うが、できることは小学校と連携していけたらと考えている。
			A	
			A	
			A	
			A	
			A	
			A	
			B	
家庭と連携し、基本的生活習慣を整える	子どもの姿から規則正しい生活リズムの大切さを保護者に根気よく伝え、連携しながら基本的生活習慣が身につくようにする。	・一人一人の家庭状況を把握し、園児が安定して心地よく過ごせるようにする。 ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てしていく視点をもち信頼関係を築いていく。 ・保護者自らが子育て力を向上できるように助言し、親子がよい関係で向き合えるよう支援する。 ・保護者に教育・保育内容や子どもの姿等を工夫して伝え、子どもの成長を共有する。	A	こども園では保護者にとっても安心できる場所であることが大切で送迎時間の活用は工夫できている。幼児期に保護者へ生活習慣のアドバイスを行っていくことは必要である。
			A	
			A	
			A	
保幼小が連携し、子どもの健やかな育ちと学びをつなげていく	幼小と交流をもち、それぞれの立場からの教育方針等を交流することで、子ども達の健やかな育ちにつなげていく。	・小学校児童との交流や小学校教員との意見交流等、連携を通して教育・保育の質の向上をはかる。 ・一人一人の園児の育ちについて、小学校と情報の共有をし、円滑な接続に繋げる。 ・乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する。	B	コロナの影響もありこの2年間は小学校との連携が難しかったが、次年度は宮園小学校と連携し職員が学びあう体制の構築が必要である。
			B	
			A	
地域に根差した(子育て拠点)こども園をめざす	園庭開放やほっと預かり、リフレッシュ預かりにいられた方や地域に向いた時に、子ども園で取り組んでいる子育て支援事業をPRしたり、積極的に声をかけ、子育ての相談にのっていく。	・地域の関係機関や団体等と連携し、協力を図り、適切な子育て支援をおこなう。 ・地域の方に情報提供を行い、共に子育てを進めていく。 ・園の機能を発揮し、地域の子育て家庭に少しでも楽しく子育てしてもらえるような関わりをしていく。 ・コロナ禍でも継続してできる地域に向けた支援を考え実践する。	A	より子どもが安心して過ごせるよう地域と話し合い改善できることがあると思う。地域、小学校、こども園で連携しながら協力してトライアル&エラーの精神で実践していく。
			B	
			B	
			B	
職員の資質向上をめざす	研修や会議、委員会、自己評価、情報交流等で専門性を高める。	・研修等を通じ専門性や倫理性の向上に努めるとともに、自己研鑽を積極的に行う。 ・職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく。 ・理念や方針、教育・保育課程や指導計画について、職員同士が共通理解する。 ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図っていく。	A	子どもにとって学びの多い機会となるよう、職員皆で専門性を高めることは大切。各自、何ができるかをイメージし頑張ってください。
			A	
			A	
			B	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
家庭と連携し、子どもの基本的生活習慣を整える。	・育児講座やクラス懇談会等で、『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣化や生活リズムを整えることが園での学びや就学につながることを伝える。 ・子どもに向けて生活習慣の大切さを教育・保育の中で知らせる。 ・引き続き、園での生活の様子を写真や動画を活用し保護者へ知らせる。
小学校との連携	・子どもや保護者が小学校のイメージを持てるようにしていく。(小学生と5歳児の交流、散歩で小学校へ行く、小学校の配布物等を見る等スモールステップでできることを実践する)・職員が小学校教員と交流する。(評価委員会、地域の会議、保幼小の研修、授業の参観等に積極的に参加して学ぶ)

園長より
今年度の教育・保育を振り返り、一人一人の子どもと丁寧に向き合うことは園として実践できた。また、園庭の草花コーナーを中心に「夢中になって遊ぶことができる環境づくり」にも取り組み、次年度は子どもの興味にあった室内環境づくりも実践していきたい。子ども園関係者評価委員会では次年度に向けた地域及び小学校との連携について意見交流できる考える良い機会となった。地域の方と子どもの交流、小学校とは子ども及び職員間の交流を実践し、子どもが地域と共に育つことを意識した教育・保育を実践していく。